

## 第21回遺跡発掘調査報告会・ 新潟県埋蔵文化財センター開館20周年記念講演会を開催しました

10月23日(日)に新潟ユニゾンプラザ(新潟市中央区)において、遺跡発掘調査報告会を開催しました。今回は午前には著名な考古学者を招いての新潟県埋蔵文化財センター開館20周年記念講演会、午後には各遺跡の調査成果の報告を行いました。

講演会と報告会に合わせて302名の参加がありました。お忙しい中、ご来場くださった皆様方へ厚くお礼申し上げます。

午前の記念講演会は、小林達雄<sup>こばたつお</sup>國學院大學名誉教授・新潟県立歴史博物館名誉館長から「二つ一つ」の縄文思想—火焰型土器と王冠型土器—と題してご講演をいただきました。縄文土器は1万5千年以上前に日本列島に誕生し、北海道北方四島から南は沖縄諸島にまで及ぶ。弥生土器に代わるまでの1万年以上にわたり約80の縄文土器様式が出現し、消滅した。縄文土器に共通する特色は口縁部に立ち上がる突起にある。それは容器には邪魔になるが、効率を犠牲にしても突起をデザ

インしていることは縄文人の世界観を表現したものである。そのなかに新潟県域に発達した火炎土器様式がある。1936(昭和11)年、アマチュア考古学者近藤篤三郎<sup>こんどうとくさぶろう</sup>により長岡市馬高遺跡<sup>うまたか</sup>から掘り出された土器の4つの大仰な突起が炎を連想させ「火焰土器」と命名された。一般には火焰型土器と呼ばれる土器には王冠型土器が常に伴うことが分かった。火炎土器様式における縄文人の世界観は火焰型土器と王冠型土器の二項対立の思想を含む、まさに「二つ一つ」の縄文思想である。他の縄文土器様式や集落の住居配置、環状列石<sup>かんじょうれいせき</sup>でも二項対立が認められる。以上のように説かれ、縄文文化研究の第一人者のお話<sup>お話を</sup>に聴衆は熱心に聞き入っていました。

午後の遺跡調査報告は、国道49号阿賀野バイパス建設事業に関連する遺跡を中心に、阿賀野市の3遺跡、上越市の1遺跡を報告しました。また、午前9時から午後4時まで出土品を展示し、調査員が詳しく解説しました。展示品は報告の4遺跡のほか<sup>ほかに</sup>阿賀野市教育委員会が発掘した縄文時代晩期の石船戸遺跡<sup>いしふなと</sup>の出土品もあります。そのなかでも遮光器土偶<sup>しやこうきどぐう</sup>と呼ばれる東北地方の伝統を色濃く示す土偶の頭部は、来場者の人気を集めていました。この報告会資料の内容は(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団のホームページにありますのでご覧ください。

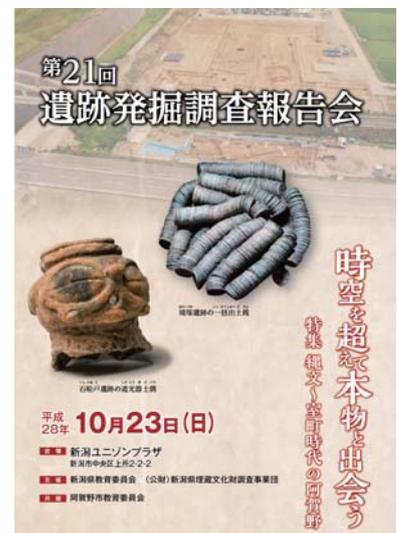
(田海 義正)



小林達雄氏の講演



出土品展示会場の様子



遺跡発掘調査報告会資料の表紙

## 平成28年度発掘調査遺跡の紹介

たから だ

# 宝田遺跡

(柏崎市大字宝田ほか)

宝田遺跡は、柏崎平野のほぼ中央部の沖積地に立地します。遺跡付近の地表面の標高は4mほどで、柏崎市内で最も低い地域です。国道8号柏崎バイパス建設事業に伴い、約11,000㎡を4月から発掘調査してきました。今回の調査は、平成25・26年度に続く3回目の調査ですが、新たな知見を得ることができました。

南北500mという広大な調査範囲からは、鎌倉時代（13世紀ころ）から室町時代（15・16世紀ころ）の水路や東西南北に整然と築かれた水田区画を検出することができました。特に、水路には様々な工夫を見て取ることができました。検出した室町時代の水路には、水量や水温を調整する「堰」や「溜井」と呼ばれる窪地が築かれており、限りある用水が効率的に利用されていたと考えられます。

用水は遺跡の東側を流れる鯖石川から得ていたようです。しかし、平野全体の水田を潤すには十分な水量ではなく、用水の確保に苦勞したことが多くの古文書に記されています。1595（文禄4）年には上杉景勝の家臣・直江兼続が、鯖石川を堰き止め、水源となる「藤井堰」を築きました。江戸時代には、刈羽郡奉行・青山瀬兵衛が強固な「藤井堰」や幹線水路を築き（1654（承応3）年完成）、水田の整備が進められました。

一方、鯖石川は勾配が緩やかな上に大きく蛇行しており、かつ河口部は砂丘により閉塞されているため、たびたび洪水災害を発生させていました。このことは江戸時代の古文書のほか、今回の発掘調査でも遺構が洪水砂に覆われていることから明らかです。洪水災害に見舞われながらも復旧作業を行った様子も確認できましたが、16世紀前後に発生した大規模な洪水災害は、壊滅的なダメージを与えたようです。その後、100年ほどの間、水田は復旧されず、17世紀に青山瀬兵衛により再構築された水田が現在の水田の礎となったことが分かってきました。

(加藤 学)



遺跡近景(北から、奥に見えるのが米山)



16世紀ころの水路と水田区画



洪水砂に覆われた水路(幅約2m)



水田の「あぜ」を発見した様子(幅約30cm)

平成28年度整理作業遺跡の紹介

ろく たん だ みなみ  
**六反田南遺跡中・下層（遺構編）**

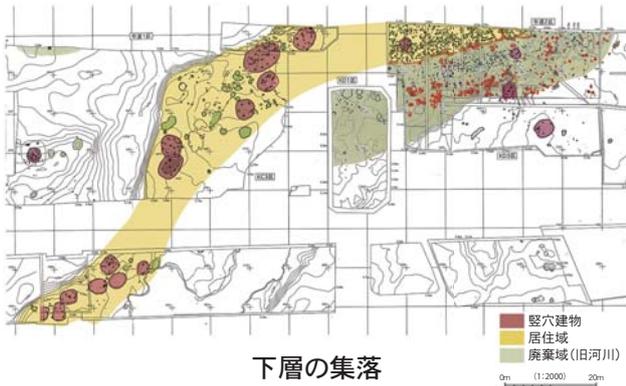
（糸魚川市大字大和川字六反田地内）

遺跡は糸魚川市街地の東を流れる海川下流の右岸の沖積地にあり、日本海まで約200mの海辺近くに立地します。北陸新幹線と国道8号糸魚川東バイパスの建設事業に伴い、平成18～25年度に発掘調査を行いました。現在、平成22～25年度に調査した地区の整理作業を行っています。上層（弥生時代～中世）、中層（縄文時代中期中葉）、下層（縄文時代中期前葉～中葉）の集落が見つかりました。各層の間には洪水層が堆積していたため、良好に保存されていました。中・下層は15棟前後の<sup>たてあなたてのもの</sup>堅穴建物や炉からなる縄文時代中期（約5,000年前）の集落です。これまで調査は多年度にわたり、工事工程に合わせて行ったため、遺跡の全体像が不明確でしたが、整理作業をとおして明らかになってきました。

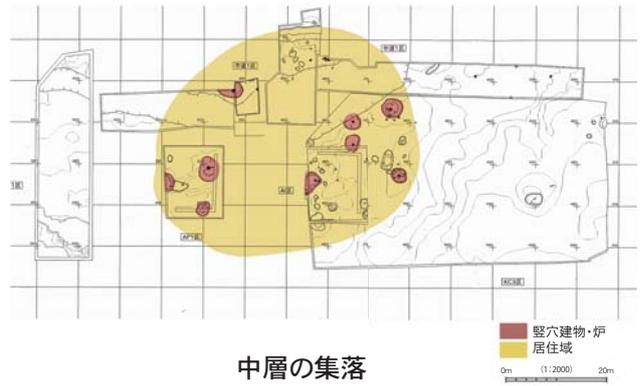
層	堅穴建物	炉	土坑	土器埋設	炭化物集中	集石	溝	ピット	列石	その他	合計
中層	10	5	27	4	7	1		40		4	98
下層	18		101	17	4	26	5	1,330	1	19	1,521

六反田南遺跡 遺構数(平成18～25年度の合計)

**集落の変遷** 下層と中層の間には厚さ約1mの洪水層が堆積しますが、時期的に連続します。下層は自然堤防の地形に規制された細長い集落ですが、中層は洪水堆積で平坦になった地形に円形集落をつくります。当時の一般的な<sup>きよてんしゅうらく</sup>拠点集落は環状を示しますが、地形の規制がなくなった中層では円形を志向するようになります。



下層の集落



中層の集落

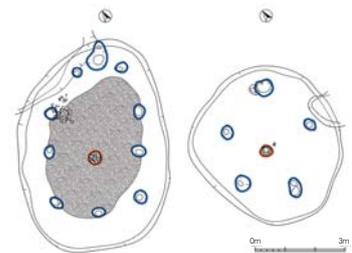
**炉の変遷** 下層と中層の堅穴建物や炉には、さまざまな形態の炉がありましたが、その変遷が明らかになりました。下層から中層へは、「単純な炉から複雑な炉」、「小型の炉から大型の炉」への変遷が見られます。



\*左から右に新しくなると考えられます。

**下層の堅穴建物の構造** 調査時には土の識別が難しく、柱穴の配置などははっきりしませんでした。整理作業をとおして①柱穴は規則的に並ぶ。②柱並びから多くの堅穴建物は、北に対し約30～50° 東に向いている。③北側の柱穴が太いことが分かりました。

海辺近くに立地した遺跡の堅穴建物が、冬場に吹く北西からの強い季節風に対処した結果とも考えられます。（高橋 保雄）



堅穴建物の柱穴配置  
 左: 楕円形 右: 円形

埋文コラム

## 弥生時代・古墳時代の鉄器

### 弥生時代の鉄器

日本で鉄器が使用されるようになったのは弥生時代前期後半～中期の初め(約2,500年前)とする説が近年有力です。新潟県でも弥生時代後期(約1,900年前)の遺跡から鉄器が出土しています。当事業団が調査した遺跡では上越市裏山遺跡(鍬3・鉋1・鋤鉞先6・不明1)、同市下馬場遺跡(鍬1・鉋1・針状鉄製品9・不明3)などから出土しています。下馬場遺跡では竪穴建物の中に鍛冶炉と考えられる焼土があり、鉄器の補修などを行っていたようです。

### 古墳時代の鉄器

古墳時代は古墳から多くの鉄器が出土しています。長岡市(旧和島村)姥ヶ入南遺跡では弥生時代末～古墳時代初め(約1,800年前)の墳墓から斧・剣が各1点出土しました。このうち斧は長さ14.4cm、幅5.9cmと大型で、朝鮮半島産の可能性が高い遺物です。またこの斧には遺体から湧いた蠅の蛹と推測

できる圧痕が確認でき、モガリ(人の死後埋葬するまでの間、遺体を棺に納めて特別に設けた建物に安置する儀式)が行われたことを示す資料とする意見があります。

上越市黒田古墳群は古墳時代中期(約1,600年前)の古墳群で円墳11基・方墳2基・木棺墓1基を調査し、剣・刀・斧・鑿・鉋・鋤鉞先・環状製品など多くの鉄器が出土しました。木棺墓から出土した蛇行剣は、新潟県内では黒田古墳群以外では出土例がない珍しいものです。近畿地方を中心とする西日本に出土例が多く、近県では石川県や長野県に出土例があります。用途は祭祀用の儀器で、報告書では三輪山信仰との関連を指摘しています。上越地域には延喜式内社の「大神社」があり、時代は下りますが県内の平安時代の墨書土器には「大神」・「神人」などがみられ、興味深い問題を提起しています。

南魚沼市余川中道遺跡は、蟻子山古墳群・飯綱山古墳群と関連する古墳時代中期(約1,600年前)の有力な集落遺跡と推測できますが、ここからも鍬や刀子(小刀)、鎌または鋤鉞先が出土しています。

姥ヶ入南遺跡、黒田古墳群、余川中道遺跡の鉄器は新潟県埋蔵文化財センターの常設展示室に展示しています。また、裏山遺跡の鉄器は企画展示コーナーで平成29年1月22日(日)まで展示中です。



上越市裏山遺跡の鉄器(1～6:鋤鉞先、7:鉋、8・9:鍬、10:不明 2の幅82mm。上越市埋蔵文化財センター蔵)



下馬場遺跡の針状鉄製品(長さ7.5cm)



長岡市姥ヶ入南遺跡の斧(左)と表面にみられる蠅の蛹の圧痕(右、目盛りは1mm)



上越市黒田古墳群木棺墓出土鉄剣(上)・蛇行剣(下)(下:全長30.6cm(推定))

平成28年度  
新潟県埋蔵文化財センター冬季企画展

## 「発掘!新潟の遺跡2016

### —特集・縄文～室町時代の阿賀野—を開催します

遺跡は歴史のタイムカプセルです。新潟県内では毎年数多くの発掘調査が行われ、新たな発見や史実を裏付ける成果が得られています。この企画展は、平成28年10月23日に開催した第21回遺跡発掘調査報告会において展示した出土品をあらためてご覧いただくものです。新潟県教育委員会が近年に発掘調査を行った阿賀野市内の遺跡を中心に、その成果を出土遺物と写真パネルで紹介いたします。実物をとおして新潟県の歴史に触れていただきます。観覧は無料です。

□会 期 平成29年1月28日(土)～4月2日(日) 9:00～17:00 ※期間中、休館日はありません。

□会 場 新潟県埋蔵文化財センター 企画展示コーナー (新潟市秋葉区金津93番地1)

□展示解説 2月11日(日)と3月5日(日)の11:00から展示解説を行います。

□展示遺跡と主な出土品

阿賀野市山口野中遺跡やまぐちのなか—川辺に営まれた縄文時代晩期後葉の集落から出土した土器や石冠・魚骨。

阿賀野市狐塚遺跡きつねづか—弥生時代中期後半の土坑墓どこうぼに埋納された東北系・北陸系・中部高地系の壺。

阿賀野市蕪木遺跡かぶき—平安時代前期の大型掘立柱建物ほったてばしらたもの(長さ約16m)の雨落ち溝に捨てられた黒色土器。

阿賀野市境塚遺跡さかいづか—鎌倉～室町時代の幹線道路沿いの町で曲物に納めて埋められた一括出土銭いっかつしゆつせん。

阿賀野市堀越館跡ほりこし—応永三十(1423)年の越後争乱で焼け落ちた館から出土した希少な茶道具。

上越市二反割遺跡にたんわり—平安時代後期の集落から出土した珠洲焼や土師質土器などの生活用具。

上越市堂古遺跡どうこ—鎌倉～室町時代の集落から出土した青磁や白磁などの輸入陶磁器と鎌などの鉄製品。



山口野中遺跡の四足付浅鉢(高さ約10cm)



蕪木遺跡の黒色土器有台椀(直径16cm)



境塚遺跡の一括出土銭(2,909点)



堀越館跡の茶道具(右端:高さ約17.5cm)

## 県内の遺跡・遺物95

## 保内三王山古墳群出土品132点

(平成28年3月25日 新潟県指定有形文化財(考古資料))

遺跡所在地：三条市上保内二ツ山

遺物保管：三条市(三条市歴史民俗産業資料館・三条市市民部生涯学習課埋蔵文化財調査室)

保内三王山古墳群は信濃川右岸の三条市上保内二ツ山に位置します。古墳群の最高位にある11号墳は標高約101m、平野部との比高が約85mを測り、樹木の遮りがなければ新潟平野や角田山、弥彦山を一望することができます。

昭和58年9月に地元在住の郷土史研究グループからの情報を受けて新潟大学が現地踏査を行い、同年12月の現地調査で正式に古墳が確認され、翌年昭和59年5月の測量調査で合計17基であることが判明しました。そして墳丘の性格を究明するために、1次・2次発掘調査を合わせて合計5基(1号墳、4号墳、5号墳、11号墳、12号墳)の部分発掘が行われました。

発掘調査の結果、保内三王山古墳群は前方後円墳(1号墳)、前方後方墳(4号墳)、造出付円墳(11号墳)、円墳(2・5～9・13・15・17号墳)、方墳(3・10・12・14・16号墳)で構成されていることが分かりました。

出土品は副葬品または葬送儀礼に使用されたもので、古墳時代前期の11号墳(造出付円墳・主軸長23.0m)からは、武器(鉄剣1点)、工具(鉄斧1点)、装身具(青銅製四獣鏡1点、石製太形管玉2点・細形管玉65点、ガラス玉34点)が棺内から出土しました。古墳時代後期の12号墳(方墳・墳長南北13.6m、東西13.3m)は、棺外から土師器・須恵器のほか、武器(鉄鏃3点)、環状鉄製品1点が見つかりました。

11号墳は武器・工具・装身具がセットで確認できることに加え、発見された鏡は越後平野の信濃川右岸地域で唯一の出土例です。これら副葬品は、当古墳の周辺域を治めた人物に大和政権が信任の証として贈与したものと考えられています。また、大和政権が北陸から会津へ勢力を拡大するためのルートとして、この地域を重視したことを裏付けるものと評価されます。

このように、保内三王山古墳群は大和政権と当地域の関係を示すことに加え、古墳時代前期から後期における葬送儀礼の変化などを一つの古墳群で把握できる点が評価されます。新潟県の古墳文化を考えるうえで欠かすことのできない貴重な資料として、132点が新潟県指定有形文化財(考古資料)に指定されました。(葭原 佳純)

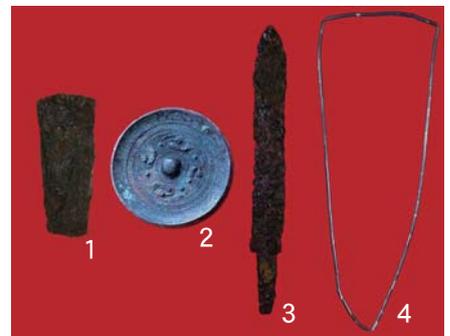
参考資料：

新潟大学考古学研究室(編)1989『保内三王山古墳群 測量・発掘調査報告書』三条市教育委員会

高野晶文2016「新たに新潟県指定文化財になった保内三王山古墳群出土品について」『新潟県考古学会連絡紙』第109号



11号墳埋葬施設遺物出土状況  
(東西4.82m、南北3.80m)  
提供：三条市教育委員会



11号墳出土品  
1:鉄斧、2:青銅製四獣鏡、  
3:鉄剣(全長28.8cm)、4:細形管玉  
提供：三条市教育委員会

## 埋文にいがた No.97

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL (0250) 25-3981  
FAX (0250) 25-3986  
E-mail: niigata@maibun.net  
URL: http://www.maibun.net  
印刷 阿部印刷株式会社